

生息域回復の
トライアル

8. 体制
- 8-1 サインの更新・新調の予算・体制確保 (常設展示更新のシステム化)
 - 8-2 プログラム作成・実践ボランティアチーム
 - 8-3 企業等からの寄付の受け入れ・活用の体制・仕組みづくり
 - 8-4 支援者の表示

園内

- 28~33、39~56 (施設関連)
- 57~72 (園内・近隣環境)
- 91~102 (温度・熱)
- 103~106、109~122 (手法)

7. 手法
- 7-1 クイズ
 - 7-2 オリエンテーリング
 - 7-3 ゲーム (楽しみ系)
 - 7-4 ゲーム (ミステリー等学習系)
 - 7-5 小学生向けワークシートの作成と学校への配布
 - 7-6 QRコードでの解説
 - 7-7 ARでのバーチャル現地環境体験
 - 7-8 気候変動をテーマとするガイドツアー
 - 7-9 カナダの友好動物園との交流プログラム

グランドデザイン 1、2 (コンセプト)

1. 動物園としてのメッセージ
1-1 取組のグランドデザイン

- 1-2 空港・札幌駅等、アクセス入り口での発信
- 1-3 他の施設へのつなぎ (SDGs的つながりへの関心の入り口)

園外

宮の森小
出前授業

2. 既存の動物展示をとおして何を伝えるか
- 2-1 生物多様性への関心の入り口
 - 2-2 生活様式・経済活動とのつながりへの気づきの提供
 - 2-3 先住民によるワイズユースへの気づきの提供
 - 2-4 海洋環境の変化・海ごみ
 - 2-5 生息地の環境変化によるプレッシャー (の可視化)
 - 2-6 環境変化による外来種の侵入・生息地拡大等の紹介

3. 既存の施設をとおして何を伝えるか
- 3-1 ゾウ舎から堆肥化施設への誘導・活用 (炭素循環への気づき)
 - 3-2 遮光 (アザラシ) や噴霧 (ホッキョクグマ) による適応策
 - 3-3 温室棟での2100年の気候の体感 (~札幌の気候変化)
 - 3-4 ショップ、食堂での販売をとおしたメッセージ発信
 - 3-5 園内の植生・昆虫等、非意図的教材の存在

4. 非意図的展示物の活用
- 4-1 植生をとおした気候・生態系とのつながり
 - 4-2 教材としての園内の昆虫

5. 新たに可能な展示は?
- 5-1 施設ごとのエネルギー自給率表示
 - 5-2 熱を教材とする温暖化の実感 (科学実験系)
 - 5-3 気候変動の影響を受けている動物に共通サイン表示

6. 次世代エネルギーパークの活用
- 6-1 エネルギー教育・WSの場としての活用
 - 6-2 展示の更新

Ex. 展示
人手を介さないもの

ガイド
人手を介するもの